

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 7 月 16 日 11:05 AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～42,500 円

### [NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 32,000～41,000 ドル

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～18,700

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～162.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.350

エリオット波動とは

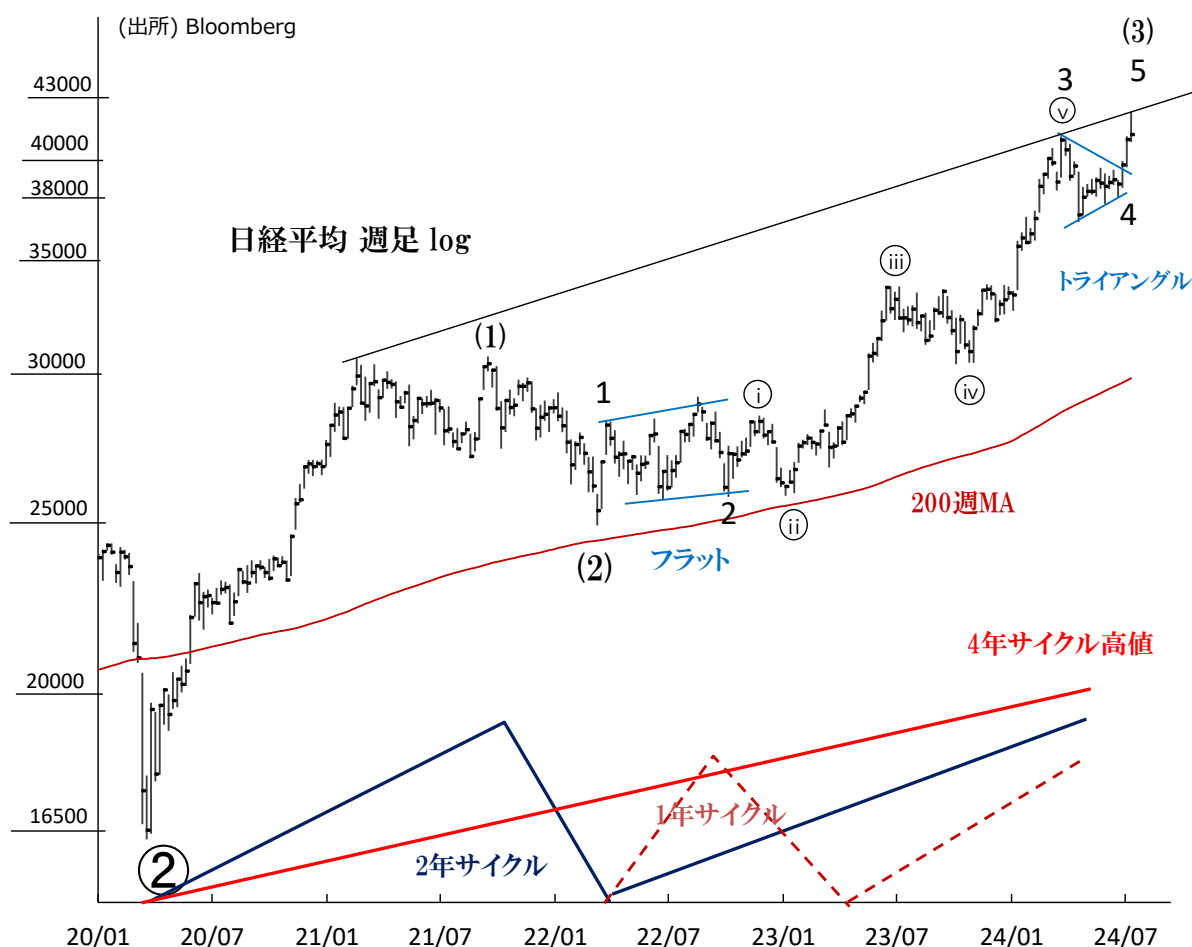
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

## 日経平均



### 【週足・エリオット波動分析】

今年 3 月高値(41,087 円)からの調整第 4 波は[トライアングル]となり、それは第 2 波(22 年 3 月～6 月)の[フラット]と交互(オルタネーション)になっていました。

そして、トライアングルから上放れた 6 月下旬からの波は、22 年 3 月安値(24,681 円)を起点とするインターミディエイト級第(3)波における、マイナー級第 5 波に位置付けられます。

7 月 11 日には一時 42,426 円まで上昇しましたが、それは第 1 波と第 5 波が 1:236 のフィボナッチ比率関係になる水準[42,470 円]に近いものでした。またこの高値は、21 年 2 月高値から引いたレジスタンスラインへの到達をはたしています。

同じ日の TOPIX 終値は 2929 となり(ザラバ高値は 2946)、第 1 波と第 5 波が等しく上がる水準[2931]を達成しています。

ちなみに、トライアングルに続いて起こる上昇(第 5 波)の特徴のひとつに、「とても強いが短期間で終了する」があり、直近の新高値・急落という動きは第 5 波終了を示唆しています。

今年、日経平均の年間上昇幅はザラバベースで 9733 円になりました。これは歴代首位の年間上昇幅である 11244 円(20 年)には及びませんが、19 年～23 年の平均(6566 円幅)を大きく上回っています。

もう少し動向を見定める必要はあるものの、③波-(3)波「サード・オブ・サード」終了の可能性があります。

もしそうであれば、今は③波-(4)波調整が始まったところです。この調整は 9～11 月まで続き、それを以て日経平均は 4 年サイクル底を付けることでしょう。

今月のマンスリー・フォーカス(No.42)に書いたように、日経平均は高値から 15%～20%調整する可能性があります。暫定的に 42,426 円を高値とみなせば、日経平均の 4 年サイクル底の水準は 3 万 6000 円～3 万 4000 円と見積もることができます。



#### 【日経平均 日足・エリオット波動分析】

37,950 円(6/17 安値)以来の上昇・マイナー級第 5 波とカウントされます。

7 月 11 日に日経平均はマドを空けて上昇しましたが、翌 12 日は一転、マド空けで急落しました(12 日の 1033 円安は 3 年 5 カ月ぶりの下げ幅でした)。



## NYダウ



### 【NYダウ日足・エリオット波動分析】

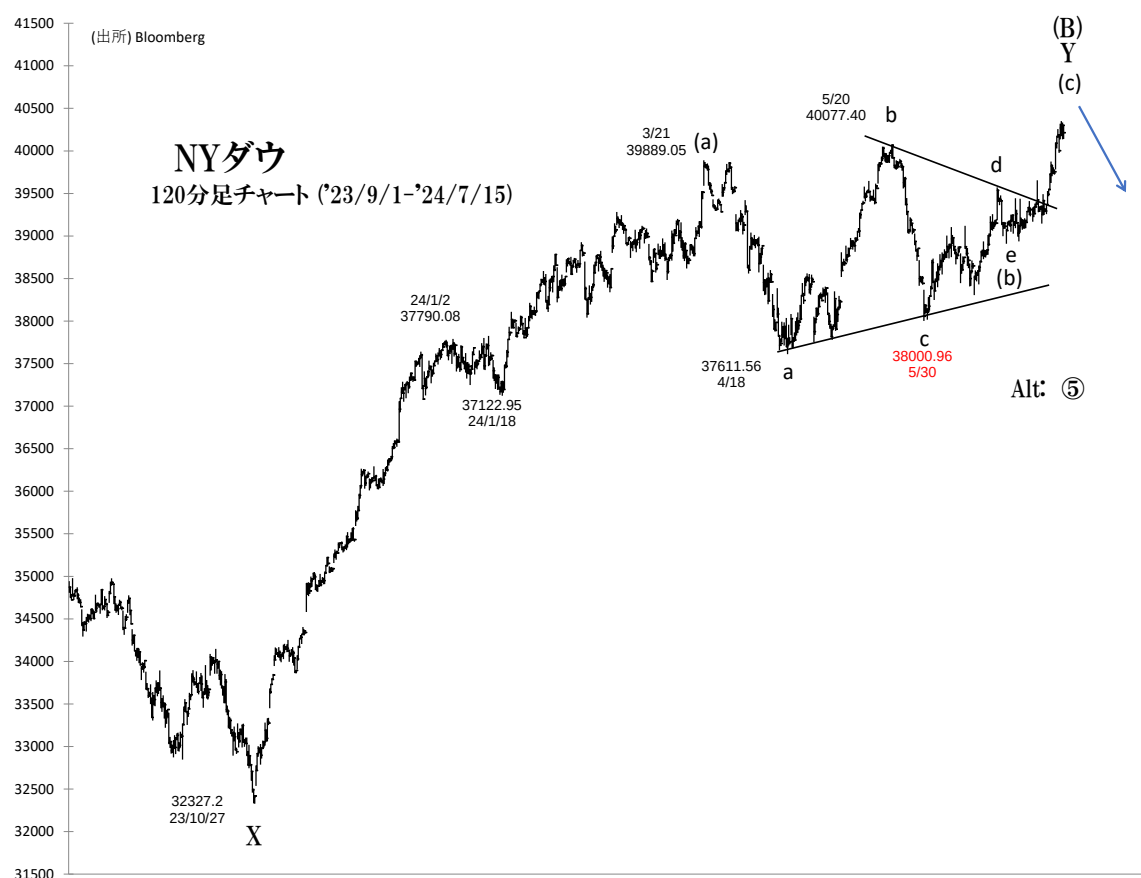
NYダウは22年1月高値(36,952ドル)以来、プライマリー級④波展開中とみられます。22年10月からの上昇は④波における(B)波であり、それは「不規則天井(イレギュラー・トップ)」です。(B)波の後に続く(C)波の下落スケールは、(A)波の下落(22年1月～22年10月)に匹敵するか、あるいは、より大きなものになるでしょう。

22年10月安値(28,660ドル)を起点とする④波中(B)波の上昇は、ダブル・ジグザグ[W-X-Y]。23年10月安値(32,327ドル)からの上昇はY波ジグザグ[(a)-(b)-(c)]です。

7月15日に一時40,351ドルまで上昇し、**NYダウは最高値を更新**しました。

NYダウは[トライアングル]による(b)波を完成し、足元は「最後の上昇」(c)波と解釈できます。

足元高値は[40,120ドル-40,690ドル]の中にあります。波動構成からも水準からも、**NYダウはいつ天井を付けてもおかしくありません。**



### 【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

3 月高値からの(b)波は[トライアングル]と解釈できます。それは 38,937 ドル(6/28 安値)で完成し、以来、(c)波による上昇が展開しています。

もう一つの波動カウントとしては、現在進行中の上昇は第⑤波であり、その完成を以て 22 年 10 月安値 (28,660 ドル)からの 5 波構成による強気相場はすべて終わります。

なお上記二つの見方の間に大きな差はなく、重要な天井が接近しているという点で共通しています。

## ナスダック



### 【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

22 年 12 月からの上昇は、プライマリー級第④波における(B)波に位置付けられます(あるいはプライマリー級第⑤波)。(B)波終了後には(C)の下落がスタートしますが、(C)波によりナスダックは 12,500～10,000 へ下落する可能性があります。

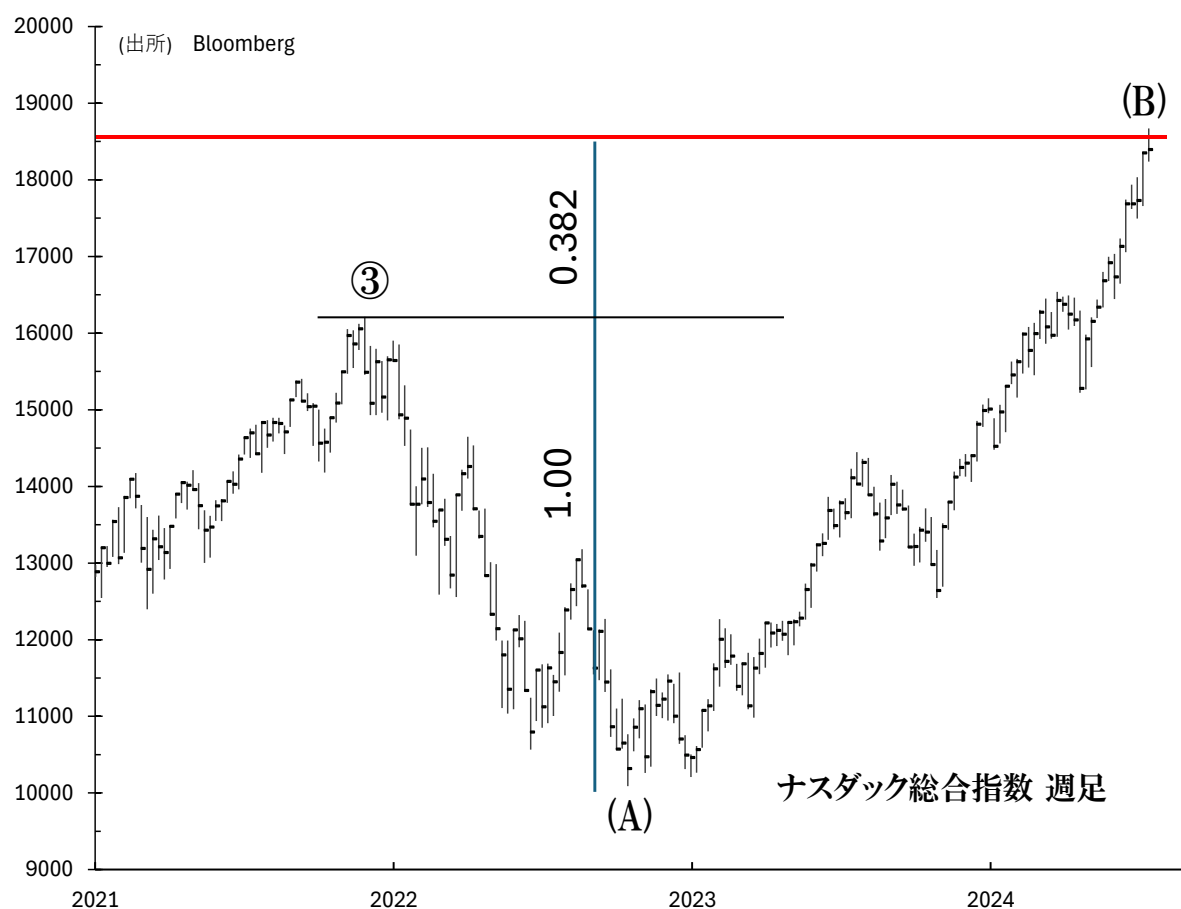
④-(B)波による上昇は[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]編成です。今年 4 月安値(15,222)からは、Y 波(②-③-④)中③波による上昇とみられます。

7 月 11 日には一時 18,671 まで上昇し、フィボナッチ比率の節目に達しました。

[18,551] ④-(B)波の上昇幅が、④-(A)波(21 年 11 月～22 年 1 月)による下落幅に対し 1.382 倍

加えて、この日のローソク足「包み大陰線」は、ナスダックのピークアウトを暗示しています。

短期的に 7 月 3 日-5 日のギャップ(18,188-18,197)が埋められると、それは下落トレンド入りの追加的シグナル発動となります。



## 【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・長期エリオット波動分析】

### [基本シナリオ(プリファード・カウント)]

SOX 指数は、08 年 11 月安値(167)以来の第③波による上昇を 22 年 1 月高値(4068)で完了し、そこからは第④波の調整が展開している、とみています。

これまで書いてきたように、この第④波は[エキスパンディッド・フラット]か[ランニング・フラット]を形成するとみられ、22 年 10 月安値(2089)からは(B)波の上昇に位置付けられます。

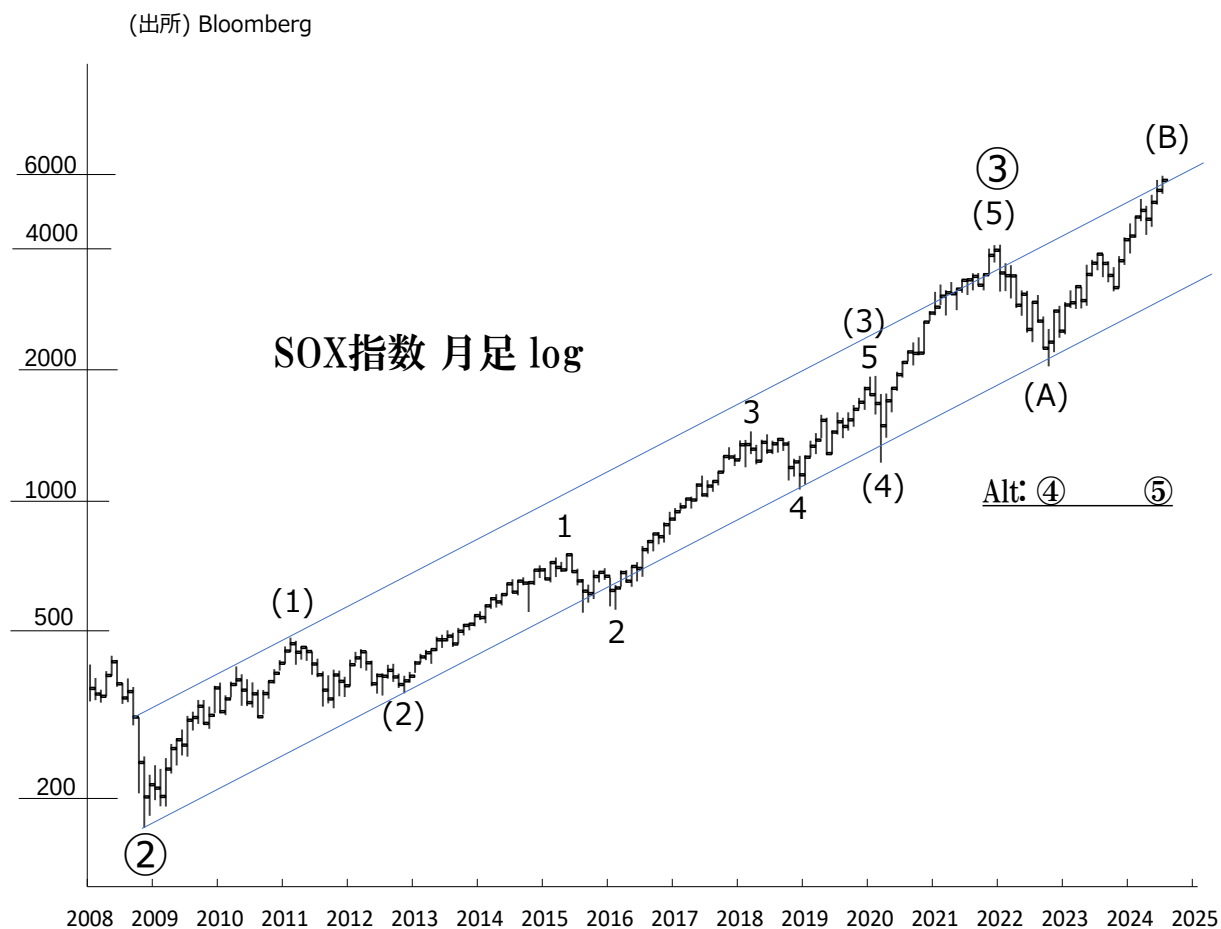
(B)波が終わった後には(C)波による下落トレンドが続きます。

それは④-(A)波(22 年 1 月～22 年 10 月)の下落率(48.63%安)に匹敵するか、あるいはそれを超えるスケールでの下落が見込まれます。

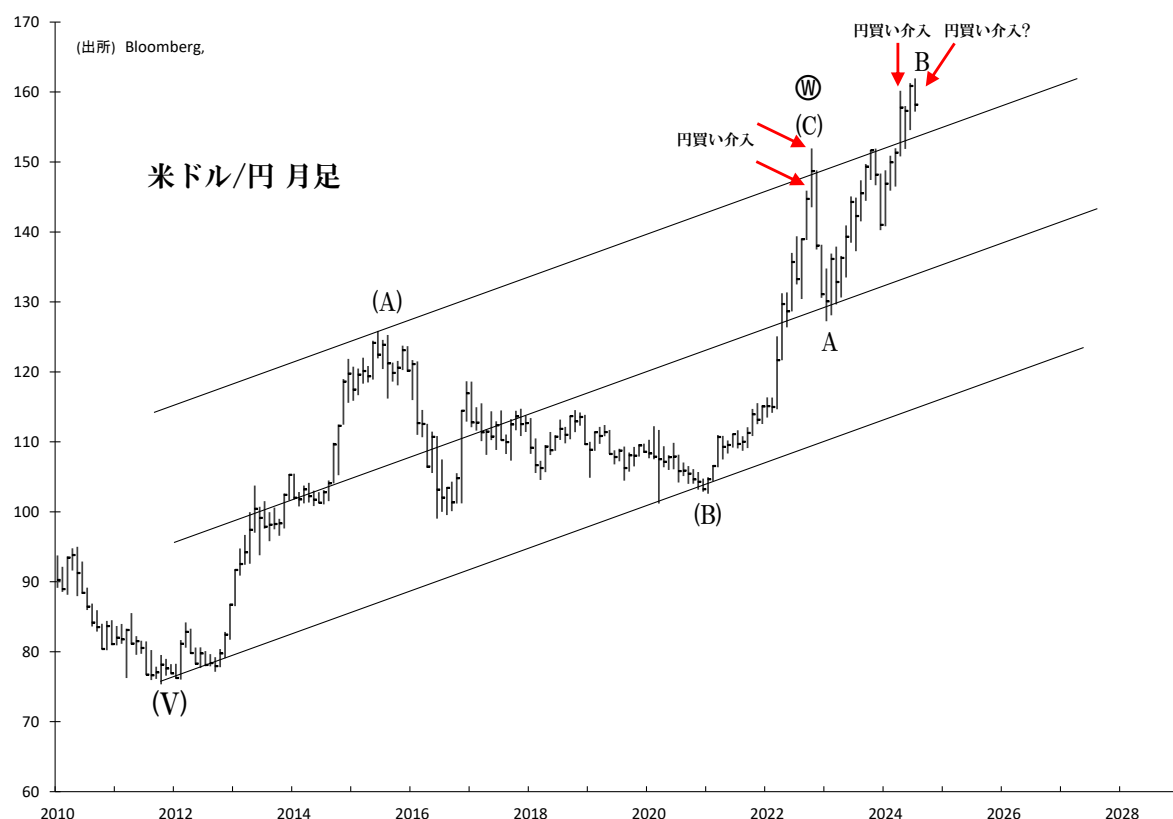
### [代替シナリオ(オルタナティブ・カウント)]

上記の基本観に代わる見方として、「22 年 10 月安値から足元までの上昇が第⑤波」をあげられます。このケースだと、第⑤波完成後の調整は(基本観に比べ)より深く、より長期にわたるものになるでしょう。





## 米ドル/円



2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安①波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。

### 【月足・エリオット波動分析】

ドル/円8年サイクル高値は161.938円(7/3)を以て終わったか、終わりつつある、とみています。

いまメディアやSNSを通じて「円買い介入でも円安は止められない」「1ドル=200円説」などという極端なフレーズが飛び交い、「円安は構造的なもの」と永久に円安が続くかのようにいわれていますが、結局のところ相場は循環論であり、誰もが納得しやすい相場の理屈や構造論が持ち込まれたとき、その相場は大抵終わりに近いものです。今回でいえば円安の終わりが近い、ということです。

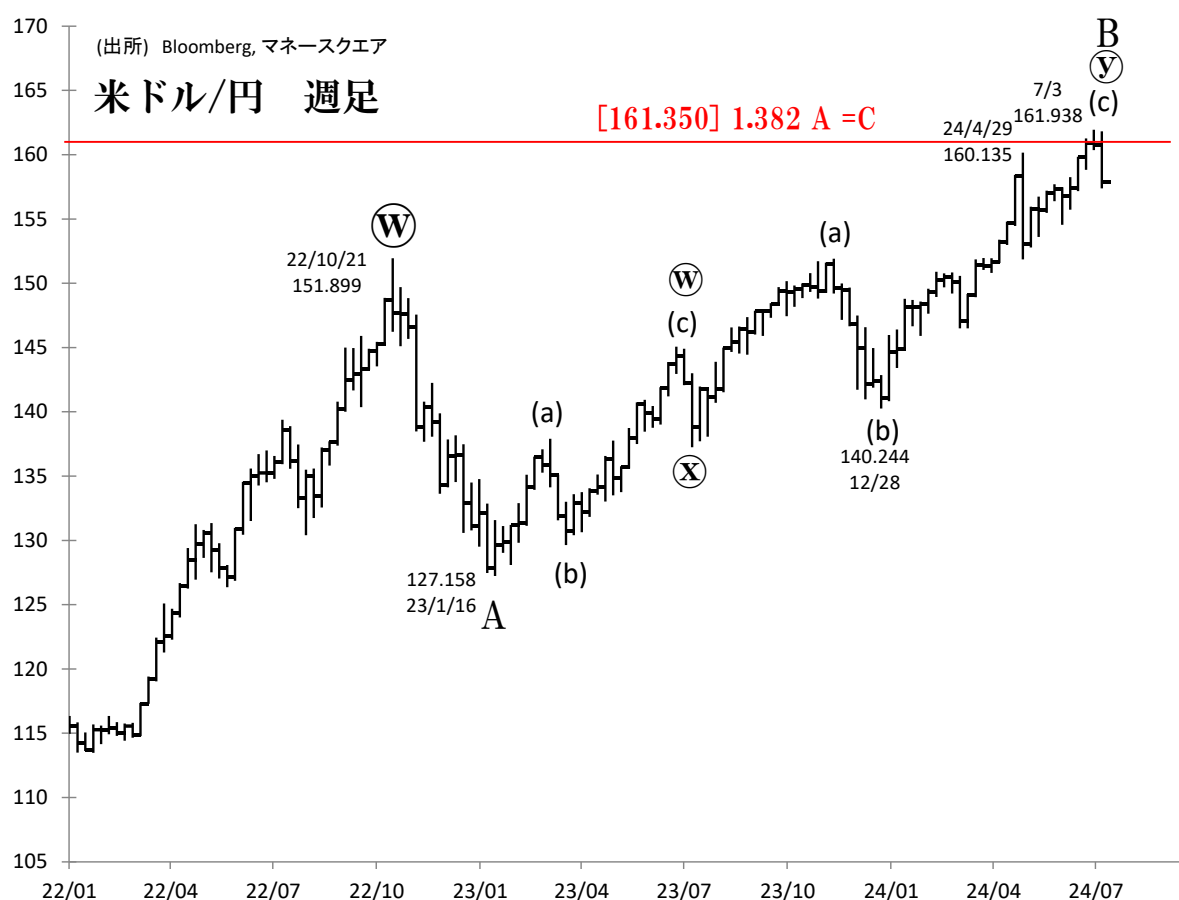
現在の月足は、長期上昇チャネルの上側から大きく逸脱していますが—今月のチャネル上限は153.750円に位置します—このように「極端に上がり過ぎ」の状態は長続きせず、いずれチャネル内に回帰する公算が大きいと思われます。

7月11日の日本時間21時半に米CPI(予想を下回る結果)が発表されると、円相場は円高に大きく振れました。政府・日銀が3兆円超の規模で、ドル売り・円買い介入を実施との観測があります。

また翌 12 日には、ユーロ/円に対するレートチェック報道もあり、ユーロに対しても円買い介入が入るのではと警戒され始めました。

これら政府・日銀による一連のアクションにより大きなトレンドが劇的に変わるとはいえませんが、少なくとも「円安パニック」「円安バブル」終息への、最初のきっかけにはなり得るでしょう。

今回は特に、円安から円高への基調転換は対米ドルだけでなく、他の主要通貨に対しても広がり始めた点に注目しています(名目実効円レートは円高に動き始めています)。



#### 【週足・エリオット波動分析】

22 年 10 月 (151.899 円) からの A(↘)-B(↗)-C(↘)編成において、23 年 1 月 (127.158 円) からは B 波に位置付けられ、それは 151.899 円を超えて不規則天井(イレギュラー・トップ)を形成しています。

A 波の長さに対し、B 波の長さが 1.382 倍になるとみた場合(これはノーマルな考え方です)、B 波トップの目標値は 161.350 円です。この目標値は既に達成されており、B 波はいつトップアウトしておかしくありません。

なお B 波の後に続く C 波(ドル安・円高)の長さについては、A 波が有効な「ものさし」になります。A 波の長さは 24.741 円(およそ 25 円)でした。ここから、C 波の長さの標準は 25 円程度と思われます。

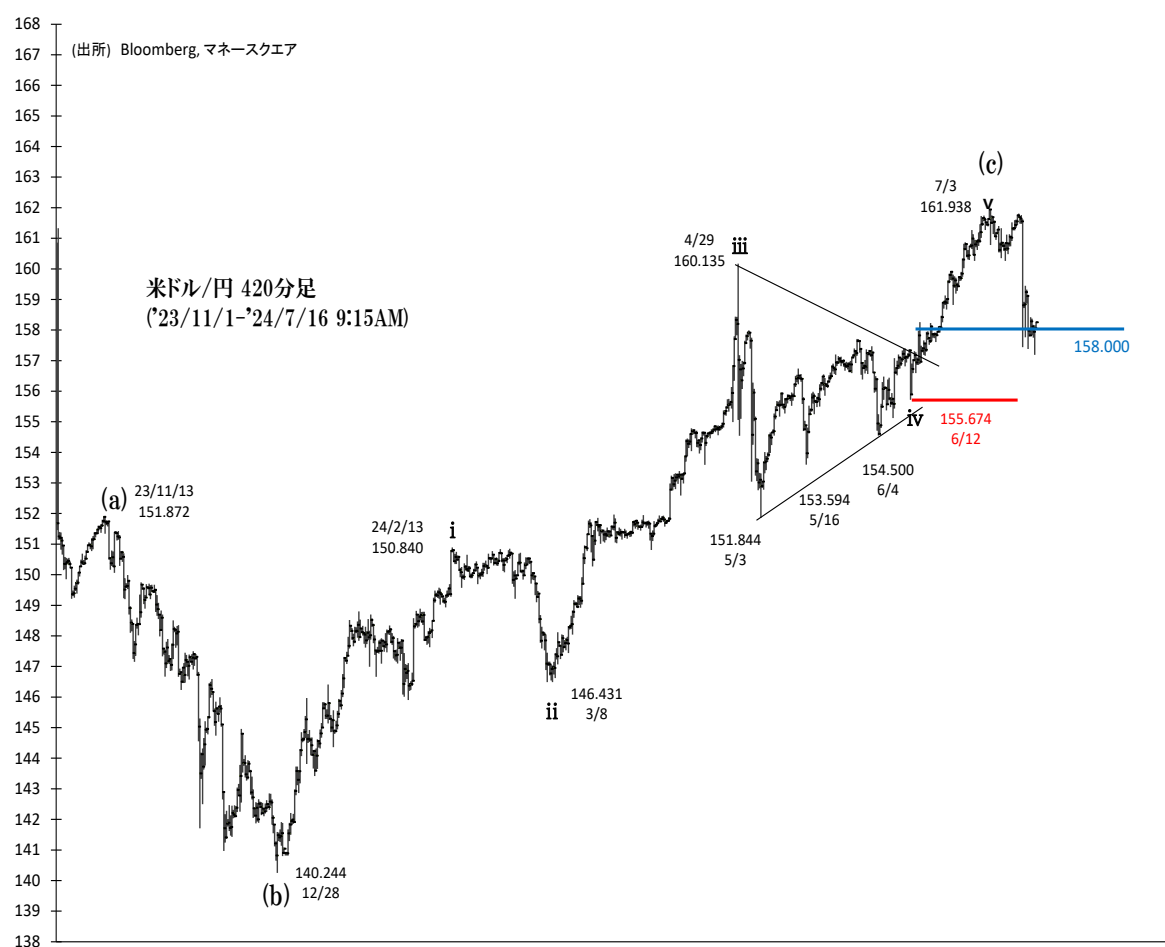


#### 【日足・エリオット波動分析】

4 月に入ってから急激なドル/円上昇(152 円⇒161 円)は、日米実質金利差を反映しておらず、専ら投機によってもたらされました。『円安バブル』と呼べる過剰な円安は、今後はあるべき水準へ修正されていくと思われます。

[日米実質金利差による推計値]・・・147.454 円

筆者は、米長期金利の大幅な低下⇨大幅な米ドル安を見込んでおり、そうなれば日米実質金利差の縮小に沿ってドル/円は 150 円を下回っていくでしょう。



### 【時間足・エリオット波動分析】

昨年末の 140.244 円からのドル高・円安は、161.938 円(7/3)までに 5 つの波動がすべて出揃いました。円安から円高へ、トレンドは転換したかもしれません。

7 月 15 日に一時 157.235 円までドル/円は下げたものの、足元は 158 円台前半でもみ合う展開が続きます。今のところは節目の 158 円を明確に下抜く動きはみられません。

[158.066 円]…第 v 波の 61.8%押し水準

今後 158 円割れが定着すると、円安から円高への基調転換は一段と現実味を増すことになり、当面は 155.674 円(6/12)を試すでしょう。



## ドルインデックス (ドル指数)



### 【週足・エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックスは A(↘)-B(↗)-C(↘)編成による下落基調にあります。  
23 年 7 月安値(99.578)を起点とする B 波は、トライアングル(a-b-c-d-e)を形成中であり、足元は  
④波のドル安局面が進行中です。

おそらく、まもなく B 波は完成し、その後に到来する C 波によって、ドル指数は 23 年安値(99.578)を大きく下回るでしょう。

派生的な見方として、「トライアングルは 105.915(6/21)を以て既に完成しており、そこからは C 波によるドル安が始まっている」というものがあります。

いずれにしても、**ここからは大幅なドル安を想定**しています。

ただし 106.517(4/16)を上抜く動きとなったときは、短期的なドル安見通しはいったん撤回され、別のオプションが必要になります。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。



## 当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。また、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---